

## メッセージアウトライン エペソ4：1～6 「キリスト者の生き方」

エペソ書はパウロがローマの獄中で書いた四つの手紙のうちの一つである。あて先は小アジア（今日のトルコ）の西海岸、エーゲ海に面したエペソの教会であった。エペソは当時のローマ帝国のアジア州の首都であった。ここは彼が第3回伝道旅行の時に約3年間滞在して開拓した教会である。→使徒19章 彼はこの手紙の中で実践的なキリスト者の生き方について教えている。

[1]「さて、主にある囚人の私はあなたがたに勧めます。あなたがたは、召されたその召しにふさわしく歩みなさい」

パウロは今ローマの獄中で囚人となっているが、それはキリストにある信仰のゆえであり、彼はかえってそのことを誇りとして「主にある囚人の私」と言い表している。彼はあのダマスコ途上で復活のキリストに出会って以来、自分を「主にある囚人」と自覚して命がけで福音伝道に尽くしてきたのであった。

「召された」とは神に召され、救いにあずかり、神の子とされたという意味。キリストによって救われ、神の子とされ、天の御国を継ぐ者とされたクリスチャンはその身分にふさわしい歩みをしていかなければならない。その具体的な内容が2節以下に述べられる。

[2]「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、」

①「謙遜」…神以外に何もより頼むものを持たないへりくだった心の状態。

②「柔和」…これは優柔不断や弱々しさ、軟弱さとは違う。神にあって自己に死に、その全生活を神により頼んで生きている状態である。これはイエスの生涯に見られる。

③「寛容」…神が私たちかたくなな人間に対して示されている態度。人と人との関係においては、自分の受けた被害に対して怒りや復讐の念を起さないこと。

④「愛をもって互いに耐え忍び」…「耐え忍ぶ」とは「寛容」とほぼ同じ意味で

あるが、それを相手だけに求めるのではなく、弱さや欠点のある者同士が互いに相手に対してなさなければならない態度。しかもそれは「愛をもって」なされなければならないものである。

愛の特質→ I コリント13 : 1~8

[3] 「平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい」

平和は一致の絆である。争いのあるところには一致はない。ユダヤ人と異邦人との

一致や一体化のために多大の努力を払ってきたパウロはこのことをよく知っていた。

しかしユダヤ人であっても異邦人であっても、神に召された者、キリスト者にはそれぞれ

れ同一の御霊が住んでいてくださる。→ I コリント6:19、ヨハネ14:16~17、使徒2:38

それゆえこの「一致」とは御霊、聖霊が与えてくださる一致のこと。この御霊の一致を

熱心に保ち続けるように努めるのが一人一人の信仰者のなすべきことである。

私たちは天地万物の創造主にして義であり愛である神に召された者として、ここで教え

られたような品性を持つ者として成長させていただき、御霊の一致を熱心に保っていく

かなければならない。

[4] 「あなたがたが召された、その召しの望みが一つであったのと同じように、からだは一つ、御霊は一つです」

この「望み」とはクリスチャンがやがて新しい天と新しい地、神の国、天国に入り、そこで永遠に神を喜び、喜びと賛美をもって神に仕え、神から豊かな報いをいただく者とされるという望みである。→黙示21:1~4、22:1~5

「からだ」とはキリストのからだである教会のことであり、キリストはその「かしら」である。→エペソ1:22～23 信仰者は皆このキリストのからだである教会に属する者である。

からだはいろいろな部分に分かれていても、それは有機的に一体である（からだは一つ）。

イエス・キリストを救い主と信じたクリスチャン一人ひとりには同一の御霊（三位一体の聖霊なる神）が住んでいてくださる(1コリント6:19)ので、そこに一致があり一体となれる。

信仰者一人ひとりはこの世においては様々な違いがあるが、皆このように同一の望みが与えられているのである。

[5]「主はひとり、信仰は一つ、バプテスマは一つです」

クリスチャンが従うべきお方はただひとり、神、主なるイエス・キリストのみである。いつの時代、どこの国で救いに召されようと信じ従うべきお方はこのお方のみ。「主はひとり」なのである。そしてその主イエス・キリストを信じる信仰も一つ。神の御子イエス・キリストが私たちの罪の贖いのために、身代わりとなって十字架にかかれて死んで、その代価を払ってくださった。

このことを信じる者は救われるのである。世界中に多くのクリスチャンがいるが一人ひとは皆このイエス・キリストに対して同じ信仰をもつ者である。また信じた者は男も女も老いも若きもバプテスマ(洗礼)を受けるゆえに「バプテスマは一つ」と言われている。バプテスマを授けることは主イエスが教えられていること。→マタイ28：19

[6]「すべてのものの上であり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられる、すべてのものの父である神はただひとりです」

この父なる神はすべてのクリスチャンの父であり、唯一の真の神。父なる神はすべてのものの上であって、天地万物を支配され、特に教会を支配統治され、またすべてのものを貫いてその働きをされ、教会を生かし、そのみこころを行われ、

さらに信じるすべての者のうちに聖霊によって住まわれるお方である。

クリスチャン一致の基礎は思想とか哲学とか利害関係とか血のつながりとかそういったものでは一切なく、ただ父、子、聖霊の三位一体の神の召しから生まれる一致なのである。一つの信仰、一つの望み、一つのバプテスマ、一つのからだなる教会。これが一致の基礎である。

神によって召された者は分裂や混乱、反目ではなく、一致して神のみこころにかなった教会を形造り神の栄光を世に表わしていく者とならなければならない。